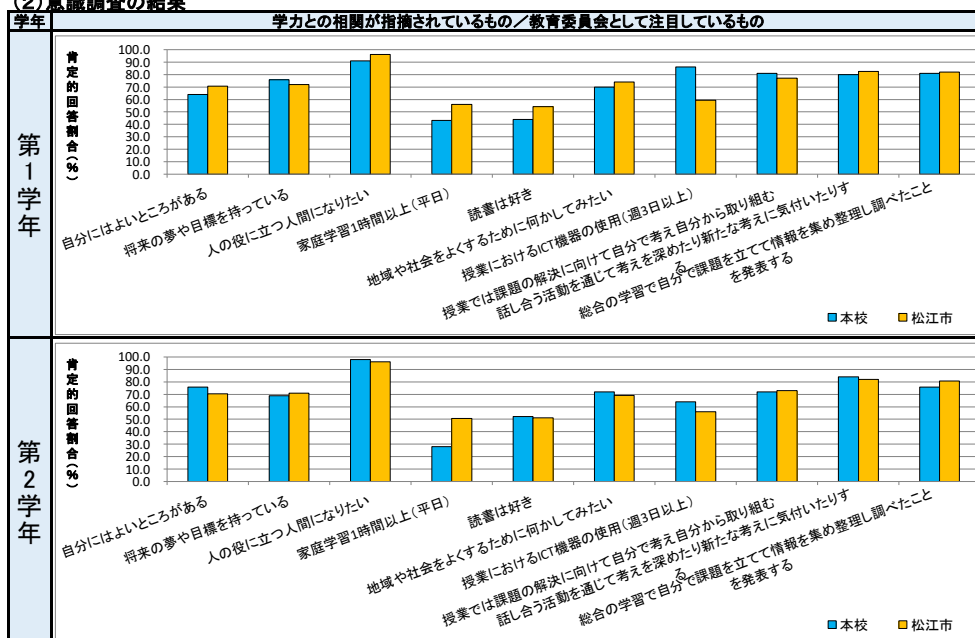


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(●)	
第1学年	国語	成果	○「文法・語句に関する事項」とりわけ「文節」と「漢字の部首」に関する問いにおいて、市の正答率を上回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くときに、書きたいことの中心を明確にしたうえで構成や展開を組み立てるよう指導する。また、読み手の立場に立って書いているかを確かめるため、グループで文章を読み合いアドバイスを行う時間を設ける。
		課題	●「文学的文章における表現の効果」について、根拠を明確にして考えることに課題がある。 ●「書くこと」において、読み手の立場に立って文章を整えたり、改善点を見出したりすることに課題がある。	
	数学	成果	○関数の領域「比例・反比例」については、正答率が全国推定値を上回っており、学習の成果が表れている。	<ul style="list-style-type: none"> 意欲をもって、数学の学習に取り組めるような教材の工夫をする。 反復練習で、基礎基本を定着させる。 授業の中で単純に問題を解いて終わるだけでなく、なぜそうなったのかを考える場面や説明する場면을意図的に設定していく。 学年相応の課題処理を学ばせながら、スパイラルな学びを通して課題を解決する系統性のある指導をする。
		課題	●数と式の領域については、正答率が全国推定値を大きく下回っている。特に「1次方程式」で分数をふくむ方程式の定着率が低い。	
	英語	成果	○リスニング問題は比較的、市の正答率に近づいている。	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心をもって、授業に取り組める工夫をする。またよりリアルな場面や状況を想定することで英語を使う環境を整える。 単語や文法の定着を図るため、パターンプラクティスをペアで行えるような活動を増やす。 様々な場面に応じて、自分の気持ちや状況を説明することを「話す」ことだけでなく、「書く」活動を個別に指導できるようにしたい。
		課題	●「場面に応じて書く英作文」や「3文以上の英作文」において、既習単語や文法を使用して、文章を書くことに課題がある。	
第2学年	国語	成果	○「読むこと」や「我が国の言語文化に関する事項」の領域については、正答率が市の値を上回っており、中でも特に、歴史的仮名遣いを読む力や文学的文章を読む力が身に付いている生徒が多い。	<ul style="list-style-type: none"> 説明的文章や文学的文章を読む中で、作品全体に目を向けさせ、文章中の情報どうし関係を見える形で整理する学習を重視する。因果関係や対比、具体と抽象を線や図で示したり、接続語の働きを意識させたりすることで、情報のつながりを捉えやすくなるような活動を取り入れていきたい。
		課題	●「情報の扱い方に関する事項」の領域について、正答率が市の値を大きく下回っており、情報と情報との関係について整理する力が身に付いていない生徒が多く見られる。	
	数学	成果	○図形の領域において、「図形の性質」の多角形の内角の和を求めることや、内角と外角の性質を使って角度を求める問題の正答率が高い。	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質を理解できているので、それを証明で順序立てて書けるように復習させる。 一次関数の式を求める際の、変化の割合や切片と傾きの関係など基礎基本をていねいに確認しながら、課題であるグラフに関する問題が解けるよう支援する。 グラフから情報を読み取る問題では、なぜグラフの形に変化があったのかを考えさせて、グループ学習を行い他の生徒の考えを共有させて知識・考え方を深めさせる。
		課題	●関数の領域の「一次関数」が全国推定値よりも大きく下回っている。表や変化の割合、xとyの値から式を求める問題の正答率は50%ほどあるが、グラフから式を求めたり、文章問題でグラフから情報を読み取る問題の正答率が特に低い。	
	英語	成果	○「聞くこと」の領域で、さまざまな英文を聞き取るリスニング問題は比較的、市の正答率に近づいている。特に、日常生活の活動について聞き、概要を聞き取る力が身に付いている生徒が多い。	<ul style="list-style-type: none"> 変化のあるくり返し学習を心がけ、単語や文法などの基礎基本を定着させる。 既習の単語や文法を用い、自分や身の周りのことについてアウトプットする場面を設定する。その際、「話すこと」で終わらずに、「書くこと」にもつなげる時間を確保する。 まとまった内容で説明する英文を書く練習をする時間を確保する。そうすることで、1、2年生で学んだことをスパイラルに復習していく。
		課題	●「書くこと」の領域で、「場面に応じて書く英作文」や「3文以上の英作文」において、市の正答率を大きく下回っている。対話の流れに合った英文を相手に伝わるように書いたり、行きたい旅行プランについてまとまった内容で説明する文を書けない生徒が多い。	

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞
 成果○:強み/伸ばしたい点 について
 課題●:弱み/改善を要する点 について

【第1学年】
 ○授業におけるICTの使用について、毎日活用していると回答した生徒が半数以上であった。
 ○授業で、課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組むと回答した生徒が市の割合を上回った。
 ●家庭学習の時間が1時間以上の生徒の割合が低い。
 ●読書に対する関心が低い。

【第2学年】
 ○自分には良いところがあるなど、自己肯定感が高い生徒が多い。人の役に立ちたいとか、地域や社会を良くするために何かしてみたいの項目が高い。「松江未来塾プロジェクト」、年間6回の「教育プログラム」が効果を上げていっていると考えられる。
 ●家庭学習の時間や、自分で課題を立てて情報を集め整理し発表する項目が低い。家庭学習を通して振り返ることの重要性や「総合的な学習の時間」で行う探究活動の取組を充実させる必要性を感じる。

【R7学力調査受検者数】

第1学年	112	名
第2学年	81	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示